35名の生徒が行き場を失った 高校統廃合問題について

日比谷 繁
鴻巣高校定時制

埼玉県教育委員会は現在「21世紀いきいきハイスクール推進計画」の後期計画を推し進めている。昨年、県教委は、後期計画を策定するために、有識者から意見を聞く「いきいきハイスクール計画推進懇談会」を4回に亘って開いた。私は埼高教定通部の仲間と共に懇談会を毎回傍聴してきた。県側から選ばれた委員なので、県の計画に沿った発言が並ぶのかなと思ったが、決してそうではなかった。

経営者、PTA代表も反対する統廃合

いくつか懇談会での発言を紹介すると、企業経営者の代表は「学校がなくなると地域の活力がなくなってしまう。地域の産業や活力を考えると、もう少し考え的かなければならない問題である。学校に教育予算として、人・金・物をつけなければ、目指すべき高校は実現できないのではないか。」

PTAの代表は「「県立高校を希望する生徒・保護者は多い。行こうと思っていた全日制高校が募集停止となってしまったため、やむなく定時制を受験したという生徒が、近隣の学校も含めて多い。結果として公私比率に収まっているかもしれないが、経済的にも相当苦しく、県立高校に頼りたい希望が強いのではないか。」また、現場の教員代表は「現場で一番切実なのは、教師が忙しすぎることと、クラスの定員が多すぎること。担任として、ひとり一人の生徒にじっくり時間を取って丁寧に対応してやりたいが、それが出来ないのが残念だ。」と発言した。彼はべつに埼高教の組合員ということではないようだ。その他にも高校統廃合に消極的あるいは慎重な意見は数多く出されたが、積極的に統廃合をすすめようとする意見は全く無かった。

はじめに結論ありき

しかし、「懇談会」の終了直後に県教委は「2013年度までに、全日制は現在の139校から133から135校程度に、定時制（全定併置校）は現在の22校から17校程度にする」という「後期計画」を発表した。懇談会の意見を全く無視する、最初から結論ありきの計画で全く怒りを覚える。

10年も前の当初計画のまま機械的に統廃合が推し進められた結果、現場はどのような状況になっているか。たとえば、鴻巣高校定時制では1年生の人数が、一昨年は20人だったのが、昨年は38人そし

て今年は36人と急増している。その一番の原因は、吹上高校がパレットスクールに改編されるために昨年から募集停止してしまったことが考えられる。さらに周りを見渡せば、吉見・行田女子・騎西・菖蒲・上尾東と次々に募集を停止し、事実上「廃校」とされてしまったために、地域内で中学卒業生が行ける高校が本当になくなってしまっている。鴻巣高校定時制の今年の一年生で過年度卒はたった一人だけで後はすべて中学新卒の生徒である。これはかつて無かったことだ。

今年の入試では、ほかでも定時制高校でかつて無かった事態が起きている。後期募集の段階で、上尾定では1・23倍、草加定では1・13倍。まるで進学校並みの倍率である。そして、二次募集でも越ケ谷定で1・74倍、吉川定で1・38倍、春日部定で1・18倍となり、3校で合わせて35名の生徒が不合格とされて、行き場を失ってしまった。

道理のない統廃合

背景には経済的事情も大きいと考えられる。家計の困窮で、働きながら学ぶ定時制高校の存在意義はむしろ高まっているといえる。

こうした事実を考えれば、これ以上の高校統廃合は全く必要が無く、道理の無い「後期計画」は直ちに撤回すべきである。むしろ、廃校にされて校舎が空家のまま放置されている所では、学校を復活させれば、全県で30人以下学級が実現できるクラス数が確保できるのではないか。

埼玉県は2007年度より既に始まっている5カ年計画「ゆとりとチャンスの埼玉プラン」の中で「夜間定時制高校の充実」を謳っているが、全く具体的手立てを講じていない。これも許せないことである。

希望するすべての生徒に学びの場を保障するため、30人以下学級を実現するため、これ以上の高校統廃合を断念させるまで、力を合わせて頑張りましょう。